



▲特集コーナーにぜひお越しください

旅してみよう！夏の旅特集コーナー
夏休みが近づいてきました！そろそろ夏休みの計画を考えている方も多いかと思いますが。ご家族やお友だちとの旅行や、一人旅もいいですね。さあ、どこに行こうかと、考えるだけでワクワクします。図書室では47都道府県の旅行情報誌や、24の国と



町生涯学習センター・図書室

☎ 096-234-2447 (内線331)

■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 毎週火曜
年末年始

■貸出冊数 1人5冊まで

■貸出期間 15日間



地域の「地球の歩き方」、船旅、キャンプや日帰り温泉等、計画に役立つ特集コーナーを作りました。旅行だけでなく、イベントや推し活でのお出かけにも、ぜひお役立てください。

■0歳児からのおはなし会について
図書室では、毎月第2木曜日に「0歳児からのおはなし会」を行っています。絵本の読み聞かせや、手袋人形、手遊びうたなど楽しい内容です。子育て中の保護者の皆さん、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちとお気軽にご参加ください。

●日時
7月10日(木) 午前10時30分～

●会場
おはなしのへや(甲佐町生涯学習センター図書室内)

新着図書紹介

小説



人よ、花よ、
今村 翔吾 著／朝日新聞出版
軍神と崇められる楠木正成を父に持つ正行は、戦なき世を求めて、北朝に降る決意を固める。それは、楠木家こそ挽回の鍵だと頼みにしている南朝を滅亡に向かわせることになるが…。丁寧に描かれた人間ドラマに胸が熱くなる作品です。



逃亡者は北へ向かう
柚月 裕子 著／新潮社
雪がちらつく3月の東北。震災直後に殺人を犯してしまった真柴亮。一方、津波で娘を失いながらも真柴を追う刑事の陣内康介…。被災地の混乱と悲しみを背景に、事件を軸にして人々の運命が交差する、心揺さぶられる一冊です。



ありが
瀬尾 まいこ 著／水鈴社
母親との関係に悩みながらも、一人娘のひかりを慈しみ育てるシングルマザーの美空。義弟で同性のことが好きな楓斗は、兄と美空が離婚した後も何かと二人の世話を焼こうとするが…。人の繋がりに希望がある、温かな読後感の一冊です。

一般書



10000人を60年間追跡調査してわかった健康な人の小さな習慣 大平 哲也 著／ダイヤモンド社
1963年から10000人を60年間追跡調査し続けたから分かった日本人の健康の最適解。死ぬまでずっと健康な人は、無意識のうちに「健康になる習慣」を実践していた!? 圧倒的なエビデンスを基に、医療×統計学の専門医が解説します。



アイラップで簡単レシピお役立ち防災編 島本 美由紀 著／Gakken
材料を入れて、湯せんするだけ！食品用ポリ袋「アイラップ」を活用した、日常でも災害時でも簡単に作れるレシピ集。肉・魚介の主菜や野菜の副菜、缶詰やレトルトが主役のおかずなどを収録。防災の基本も紹介する役立つ一冊です。



おとな旅プレミアム 日本の絶景 九州
TAC 株式会社出版事業部
九州の美しい風景を巡る上質な旅プランを紹介するガイドブックです。山と海の花々、パワースポット、古い街並と里山、癒しの露天風呂など、テーマごとに絶景スポット、周辺スポットを収録。フォトブックとしても楽しめる一冊です。

最近、連日話題になっている「米の価格高騰」問題。それと一概には比較できませんが、江戸時代の古文書「小山田家文書」の宝暦6年（1756年）の項にも当時の飢餓の様子が詳しく記載されています。

それによりますと、前年からの不作で米が穫れなかったために、甲佐手永では正月から難儀していた世帯が多数あったことが記録されています。

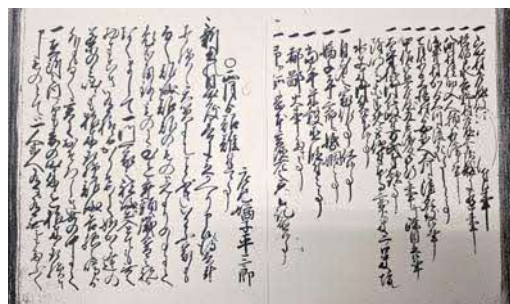
そこで、まず2月7日に男女27人に八斗五升八合（約181^{キロ}㍓）の米が配られています。その後、13日には別の男女30人に、24日には男女13人に銀を二十四分ずつ配ったとあります。また、3月9日には米一斗五升二合（約30^{キロ}㍓）が男女13人に、4月9日には男女50人に米二斗（約40^{キロ}㍓）が配られています。

※1斗：約18^{キロ}㍓、1升：約1.8^{キロ}㍓、1合：約180^{ミリ}㍓

このように当時の状況が記録として現在まで残されていることに驚かされます。

現在では、パソコンで一瞬のうちに記録できるのでしょうが、当時はひとつひとつ確認してからの作業であり、大変だったに違いありません。

それにしても、昔から日本人は米と切っても切れない関係なのですね。



▲江戸時代の古文書『小山田家文書』

お問い合わせ先 町社会教育課 ☎ 096-234-2447（内線327）

人権 ～心豊かに暮らすために～

自分の心や行動を振り返ってみませんか？

人権尊重のまちづくりに向けて、自分の人権感覚を磨き、具体的な行動につなげていくことが大切です。以下の事柄について振り返ってみませんか？

■さまざまな人がいることに思いをめぐらし、多様性を認め合い、助け合う行動を心がけている。

■身のまわりで起きる問題を「誰か」のことではなく「自分のこと」として考えている。

■差別的な言動に同調したり、根拠のない不確かな情報を拡散したりせず、正しく判断するために確認をしている。

■偏見や差別に基づく言動に気づき、おかしいと指摘し、やめるように伝えることができる。

■迷信や因習にこだわったり、思い込みで決めつけたりすることなく、正しく知ろうとしている。

■子どもの思いや意見を聞いたり、子どもの良さを見つかったり、子どもの人権を尊重している

■さまざまな人権に関する講演会に参加したり、研修で意見交換をしたりして学び続けている。

町では、毎年「町民集会」や「甲佐町人権教育講演会」など人権教育に関する学びの場を提供しています。ぜひ、ご参加ください。

※開催日は、組回覧や防災無線でお知らせいたします。

お問い合わせ先

甲佐町人権教育推進協議会
（町社会教育課）

☎ 096・234・2447
（内線324）

